

The background features a dark green field with light green, stylized musical notation. This includes a treble clef, a bass clef, and various notes and stems arranged in a grid-like pattern that curves across the page.

JASRAC[®]

第2回 JASRAC音楽文化賞

JASRAC音楽文化賞

JASRACでは、1982年から、前年度における著作物使用料の分配額が最も多かった音楽作品を評価し顕彰する独自の制度として「JASRAC賞」を実施してきました。

一方、ゆたかな音楽風土は、売上や人気などにあらわれる業績で築かれるものだけではなく、数字にはあらわれない地道な活動を行う方々もまた、音楽を愛しその土壌を支えています。

「JASRAC音楽文化賞」は、このような活動等に対し、分野を問わず光を当て、音楽文化の発展に寄与した功績を称え顕彰することにより、今後の活動への励みとしていただくことを願い、2014年11月に創設しました。

第2回 JASRAC音楽文化賞
受賞者



長田 暁二 様

木曾音楽祭実行委員会 様

長崎県オペラ協会 様

OMURA室内合奏団 様

(創作オペラ「いのち」)



2015年11月18日贈呈



長田 暁二

1930年生まれ。駒澤大学卒業後にキングレコードに入社。30年間にわたりレコードディレクターひと筋に務める。1958年の芸術祭賞を皮切りに、日本レコード大賞企画賞3回、1974年度フランスACCディスク大賞を受賞するなど、企画制作したレコードの受賞多数。その後、徳間音工常務取締役などを経て、1982年に明治音楽企画を設立、代表取締役として現在に至る。

長年ディレクターとして活躍する一方、1980年ころから、音楽文化研究者として、精力的に文筆活動に取り組む。「流行歌20世紀」など、その著書は200冊を超える。2012年には900ページに及ぶ「日本民謡事典(共著)」、本年6月には明治期以降の戦争にまつわる歌の歴史を集大成した800ページの「戦争が遺した歌～歌が明かす戦争の背景～」と、労作を相次いで出版した。

歌謡曲、童謡、民謡、軍歌に至るまで、日本の大衆音楽史を独自の視点で30年以上にわたり系統的に研究し、その成果を積極的に著作にまとめあげてきた。戦後70年となる本年には、「歌」の視点から「戦争」と「平和」を問う大著「戦争が遺した歌～歌が明かす戦争の背景～」を出版するなど、数々の記録的価値の高い著書を世に送り出し、日本の歌の歴史を後世に繋いだ。





木曽音楽祭実行委員会

木曽音楽祭は、地元のクラシック愛好家たちが自主的に始めた定期演奏会から発展し、1975年以来、山間の町・木曽で毎年開催されている。

財政難などの困難を乗り越え、1986年には「実行委員会」が発足。町・地元住民・演奏家からなる運営体制を確立した。当初は体育館を会場としていたが、1990年には木曽文化公園文化ホールが完成し、以降は同ホールにて開催している。

プログラムには、演奏されることが稀な作品や初演となる作品も盛り込まれることもあり、音楽的な評価も高い。また、音楽祭実施期間の木曽滞在による演奏家同士、町民との交流も、参加した演奏家から好評を得ている。このような音楽祭の運営が、40年以上にわたりボランティアによって支えられて現在に至っている。

生の音楽を体験する機会の少ない山間の地において、純粋に音楽を愛する多くの人々が力をあわせて演奏家を招き、40年以上の長きにわたり手作りの音楽祭を継続してきた。町、住民が一体となった地道な取り組みが、音楽を地域に深く根付かせている。地方で質の高い文化を育てるための、ひとつの有効なモデルケースを示した。





撮影:寺司正彦 / 提供:新国立劇場

長崎県オペラ協会 OMURA室内合奏団 (創作オペラ「いのち」)

「長崎県オペラ協会」は1980年、昭和を代表する歌手のひとり、故柴田睦陸氏が創設。日本で最初にオペラが上演された長崎に上質の音楽文化を根付かせることを目指し、指揮者の星出豊氏の指導のもと活動を続けてきた。地域貢献や教育現場へのアウトリーチも積極的に行っている。

「OMURA室内合奏団」は同県大村市を拠点とする日本でも数少ないプロの室内オーケストラ。2004年、カザルスホールの企画制作に携わった同市出身の村嶋寿深子氏が長崎ゆかりの奏者を集め発足。本年5月には初の東京公演を成功させた。



この長崎の2団体が手をたずさえ、本年7月、新国立劇場の地域招聘で、長崎で被爆した看護師を主人公とする創作オペラ「いのち」の初の東京公演を成功させた。

オーケストラもオペラも、一朝一夕で根付かせられる文化ではなく、地方での活動の継続にはさらに大きな志が必要とされる。両団体がさまざまな困難を乗り越え、活動を継続させてきたことが、地元長崎の被爆をテーマとする創作オペラ「いのち」の東京初演に結実した。戦後70年の今年、長崎のこの2団体が、地方で文化を育てる意義を全国に発信したことの意味は大きい。



第2回 JASRAC音楽文化賞選考委員

(五十音順)

江頭 重文

共同通信社 編集局文化部 副部長

西川 龍一

日本放送協会 放送総局解説委員室 解説委員

西田 浩

読売新聞東京本社 編集局文化部 編集委員

吉田 純子

朝日新聞東京本社 文化くらし報道部 編集委員

吉田 俊宏

日本経済新聞社 編集局文化部 編集委員

第1回 JASRAC音楽文化賞 受賞者 (2014年11月18日贈呈)

岩崎 花奈絵

1993年生まれ。障害を持ちながらも明るくひたむきにピアノの演奏活動が続ける。夢は「障害が重くてもピアノを楽しめる」ことを世界中のひとにアピールすること。

木戸 敏郎

1930年生まれ。音楽プロデューサーとして、雅楽や聲明などの古典作品を再構築し新たな創造につなげる運動を展開する一方、古代楽器の考証、復元を行う。

映画「アオギリにたくして」制作委員会

被爆体験のない世代が原爆を伝えなければならない時代であるという強い意志のもと制作された映画で、主題歌など音楽が被爆者の方の想いを効果的に伝えている。

